

各位

おかざきソーシャルビジネス・コミュニティビジネス創出コンソーシアム
(事務局：岡崎市経済振興部商工労政課)

まちシゴト アイディアプランコンテストのご案内

岡崎市は、より豊かなまちを創っていくために、新たに動き始めます！

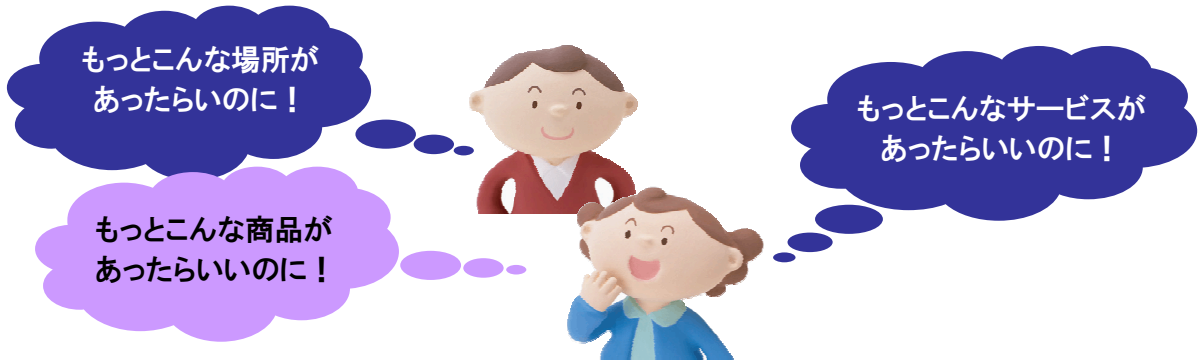
昨今、社会の課題、地域の課題は増える一方です。

それらを市民自らの手で解決していく。その動きが発展し、シゴト（ビジネス）として成立している例が日本各地で見られます。

岡崎市でも、若者からシニアまで、市民一人ひとりが地域の課題、社会の課題に目を向けてもらうことに加えて、そこから新たな雇用の場、産業の場が生まだされていく仕組みづくりを進めていきます。

まず、その仕組みづくりの第 1 弾として、

500 プランのアイデアを募集します！



普段の生活の中での**気づき**や**つぶやき**が、未来の岡崎を創る上での大きなヒントになります。



そんな、市民一人ひとりが考えた「イイなあ」のまちシゴトのアイデアを 500 プラン集めます。

「岡崎で、まちシゴトアイデアが 500 プラン集まる」

こんな話題が近い将来新聞に！？

こうした動きを、市民のみなさまと共につくり、盛り上げていきたいと思います。

この岡崎を、暮らしていて「ワクワクするまち」、「イキイキするまち」にしませんか？

ぜひ、あなたのアイデアをご応募ください！

(既に実施しているもの、まだアイデアレベルのもの、つぶやき程度のもの、どんなものでも OK です！)

なお、市民から募集したアイデアは、「アイデア集」として編集・発行します。
また、そのアイデアを形にしていく、実現していくための活動を支援していきます。

▼アイデアプラン例

例1) NPO・市民活動編

テーマ：子育て

キャッチコピー：**食物アレルギーを持つ子どものママへの情報提供サロン！**

内容：現在、子育てママが集まるサークルを行っています。

そんな中で、ママたちの話題によくあがるのが、食物アレルギーの話題。

何かしら、アレルギーを持っているお母さんたちは多いのです。実際に私の子どもも食物アレルギーを持っています。そこで、食物アレルギーをもった子どものママたちへ、情報提供をはじめようと思っています。どういうことで、引きおこされるのか、また、どういう環境を作ると改善されるかなど、リアルに会う場、そしてメルマガなどを利用した情報提供などがあるといいなあと思っています。

これをどう収益化するかの方法はまだ立っていませんが、少しずつ始めたいと思います！

例2) 地域住民編

テーマ：交通

キャッチコピー：**路線バスの本数が減少。より便利な交通手段を整備！**

内容：現在住んでいるところは、路線バスの本数が減り、とっても不便になりました。

もうすぐ60歳。年を老いて行くと、車にも乗れなくなります。病院や買い物もとっても不便になります。離れて暮らしている子どもにも、そうそう頼む訳にもいきません。中心地は路線バスや循環バスもありますが、少し中心から離れるとバスでの移動は不便です。市民病院にも行くのも、一苦労です。路線バスを増やすことは出来なくても、なんとか新しい交通方法を考えて行く必要があると感じています。

例3) 企業編

テーマ：農業

キャッチコピー：**地産地消の給食、ランチ計画！**

内容：現在の農家の経営は苦しいです。

そのため、若い人は後を継がず、高齢化も進んでいます。そこで、農家の意欲を高めるために、市内での地産地消を進めるプロジェクトを実施できればと思います。農家と市内飲食店などと連携をし、昼食に地域の食材を入れるプロジェクトを実施したいです。ゆくゆくは、地域の変った食材と取り入れて行けるように、農家の技術向上や商品開発などの勉強会も出来るといいなあと思っています。農家の収入が増え、そして市民にも地域の農家のことを知ってもらったり、興味を持ってもらうようなプロジェクトをしたいです。

例4) 企業編

テーマ：中心市街地

キャッチコピー：**薬の正しい使い方を伝授！薬局サロン！**

内容：薬は、正しい使い方をしないと、効果が薄れます。

そこで、正しい薬の使い方を伝えるサロンを開きたいと思っています。例えば、アトピーを治すステロイド剤の使い方とか。先日テレビを見ていたら、医者は正しい薬の使い方を伝える時間がないと言っていました。そこで効果が出ていない患者さんがたくさんいると。これは、私たち、町の薬局の薬剤師が伝えることが出来ることだと感じました。

チェーン店の進出におされる中で、町の一薬局が生き残って行くためには、常日頃からお客様から信頼を勝ち取るのだと思っています。だからコミュニティづくりをしたいのです。

これ自体は収益化できるのかわかりませんが、信頼関係を生む中で、本来の収益に返ってくるように感じています。